

商圈人口約140万人の広域マーケットを擁する北九州市



北九州市は、関門海峡に面し、九州最北端に位置する。福岡市と共に西日本を代表する政令指定都市の一つ。人口約90万人。



九州の玄関口・九州第2位の駅 交通の要衝・小倉

JR：日平均通過人員(2018年)
筑豊電鉄：日平均乗客数(2018年)
北九州モノレール：日平均乗客数(2018年)



市内を走る北九州モノレール、西鉄バスのターミナルとしての機能も持ち、人流が集中する場所となっている。鉄道3社を合わせた1日平均の乗降客数は10万人を超える。(出典：北九州市環境首都総合交通戦略)

北九州市商圈(40km圏内)は商圈人口約140万人

1次商圈(買物出向率70%以上の市区町村)

：門司区・小倉北区・小倉南区・八幡東区・戸畑区・行橋市

2次商圈(買物出向率50%以上70%未満の市区町村)

：若松区・八幡西区・中間市・宗像市・芦屋町・水巻町・遠賀町・直方市・宮若市・鞍手町・糸田町・福智町・田川市・香春町・川崎町・豊前市・苅田町・みやこ町・築上町・上毛町・下関市・宇部市・山陽小野田市

3次商圈(買物出向率30%以上50%未満の市区町村)

：岡垣町・飯塚市・小竹町・添田町・中津市

※買物出向率とは年1回以上の頻度で対象地域に買物に出向く比率

(出典：令和4年度北九州市商圈調査報告書)

小倉の商業施設の中心・ハブとして機能する魚町銀天街

リバーウォーク北九州



2025年3月
大規模リニューアル

アミュプラザ小倉



駅直結のホテルと商業施設
一体の複合施設

商店街の南北の軸に沿うように、地元資本の百貨店「井筒屋小倉本店」、小倉城近くには「リバーウォーク北九州」、小倉駅付近には地元大手企業が出資する複合ビル「セントシティ北九州」、JR九州による駅・ホテル・専門店が一体となった「アミュプラザ小倉」、少し離れたバスターミナル前に西日本鉄道による「チャチャタウン小倉」などの大型商業施設が点在しています。

魚町銀天街は、これらの大型商業施設を結ぶ回廊のような役割を果たしています。また、魚町銀天街を中心に東西にいくつもの商店街が形成されており、これらの商店街には、大手チェーン店などに混じって、地元で長年愛される高級な寿司店や、行列のできるパン店、ご当地グルメを味わえる店、遠方からもわざわざ足を運ぶ専門店や若者に人気のセレクトショップなど個性的な店舗が多く見られます。

小倉井筒屋



地元資本、市内唯一の百貨店
ルイ・ヴィトン、グッチなどの
ハイブランドをはじめ多数
のブランドショップを展開

セントシティ北九州



GU 2024年9月OPEN
売場面積760㎡

オフィスフロアにGMOなど
IT関連が多数入居



商店街としての取り組みが高く評価されています

魚町銀天街は小倉駅を北の起点として、南は北九州市民の台所として有名な旦過市場まで南北に約400mにわたって続く大きな商店街です。また、日本で初めて公道上にアーケードが架けられた商店街としても有名です。

また、2018年に北九州市が経済協力開発機構（OECD）よりアジア初の「SDGs推進に向けた世界のモデル都市」に認定されたことをきっかけに「SDGs商店街」を目指す取り組みを進めており、ジャパンSDGsアワードの内閣総理大臣賞をはじめSDGsの分野で受賞や取材を多く受けており、今では各地の商店街から多くの視察を受け入れています。

SDGsの代表的な取り組みとしては使われていない物件を行政と民間のまちづくり事業者や不動産オーナー等とが連携しリノベーションの手法を用いて再生し、エリア価値の向上などを図る「リノベーションまちづくり」を2010年から全国に先駆けて街全体で取り組み「リノベーションまちづくり発祥の地」とも呼ばれています。

他にもお店の人が講師となって、専門知識やプロのコツを無料で教えてもらえる講座「街ゼミ」や「きれいな街は、人の心もきれいにする」をコンセプトに定期的に清掃活動を行うgreen bird北九州、早朝や午前中の時間を活用して専門的な学びを届ける「朝ゼミ」など持続可能なまちづくりを目指して、商店街が力を合わせ、さまざまな活動を行っています。



働く、暮らす商店街へ

魚町銀天街すぐそばに2024年6月に竣工した13階建てのオフィスビル「**BIZIA KOKURA**」は、北九州市のSDGs未来都市の実現に向けた新しい取組み「コクラ・クロサキリビテーション」の第一弾プロジェクトとして、日本IBMをはじめ、IT企業等が入居し、注目を集めています。

魚町を含めた中心市街地には、これまで有効に活用されてこなかった容積を建て替えによって分譲・賃貸の集合住宅が次々と建設され高層化が進み、居住人口も増加しています。

これまで商業地として発展してきた魚町エリアが働く場所、暮らす場所へと変化を遂げることで「日常使い」のニーズも高まっています。

BIZIA KOKURAはコクラリビテーションのリーディングプロジェクトです。

SDGs未来都市の実現につながるまちづくりを目指す取組

- ・快適性、省エネ、企業価値の向上に寄与する「グリーンスmartビル」の普及
- ・安全安心で魅力ある市街地環境の形成
- ・若者に好まれるIT企業の誘致



賃貸マンションの1～3階部分に2022年6月にオープンした「**ドン・キホーテ小倉魚町店**」。駐車場併設のロードサイド店とは異なり、アーケード商店街に立地した地域密着の店舗として独自の商品展開を図り、賑わいを見せています。売場面積：923.3㎡

魚町エリアの南側に隣接する総合病院「**北九州市立医療センター**」は病床数636床、41の診療科を有し、外来患者は1日1,100人にもものぼっており、モノレール駅とも直結。医療関係者を含め日々多くの往来があり、エリアの賑わいの一要素となっています。



さらに未来へ向かって歩み続ける商店街へ

魚町の南エリアに位置する北九州の台所と呼ばれる「**巨過市場**」は現在全体を4つの地区に分けて再整備中で、全く新しく生まれ変わります。今後、これまで以上に活気溢れる市場エリアとして賑わいが期待されています。



A地区
令和7年度完成予定

さらに、デジタル人材需要の高まりを受け、北九州市立大学が「**情報イノベーション学部 (仮称・設置構想中)**」を設置する計画で、周辺の人流が増加することが期待されています。



基本設計時のイメージ図
※実際の建物は変更となる可能性があります

2027年4月
情報イノベーション学部 新設
(仮称・設置構想中)

情報イノベーション学部 (仮称・設置構想中) の概要

学部名称(仮称)	情報イノベーション学部
学科名称(仮称)	情報エンジニアリング学科(入学定員:68名) 共創社会システム学科(入学定員:50名)
入学定員	118名(仮定員472名)
学位	学士(情報工学)
開設時期	2027年(令和9年)年4月
設置場所	北九州市小倉北区(巨過地区)

各学科で養成する人材像

情報エンジニアリング学科 (養成する人材) 情報工学の先端技術を駆使する高度人材 (教育内容) AI、ロボティクス(ロボット工学、センサ技術等)、 セキュリティ(情報セキュリティ等)、画像処理、 3Dモデリング設計とAR/VRシステム開発 等	
共創社会システム学科 (養成する人材) GX推進や地域社会の課題解決に専攻するデジタル人材 (教育内容) エネルギー工学、管理情報戦略、建設ビッグデータ解析、 ソーシャルビジネス 等	